News Release

おいしさと健康
Glico
江崎グリコ株式会社

報道関係者各位

2018年9月12日

母と子のコミュニケーション調査 2018 by Pocky

子どもの2/3は「母親に声をかけづらい」 子どもの約8割が母親に話しかけるのをやめた経験アリ
母子コミュニケーションを深めるには、“ふたりの一緒時間”が重要と判明！

江崎グリコ株式会社はこのたび、中高生の子どもを持つ母親1,000人と、中高生男女1,000人の合計2,000人を対象に「母親と子どものコミュニケーション」に関する調査を実施しました。

「Share happiness！（シェアハピネス）」をスローガンに掲げ、分かち合うことで「人」と「人」との笑顔をつないできたポッキーが、今回新たに提案するのが「母親」と「子ども」の会話を後押しするポッキーの”新しいスタイル”です。母子のコミュニケーションを見つめ直すことで、もっと母子で会話をしてほしい。そんな思いから今回の調査実施に至りました。

主な調査結果

«母親と子どもの普段の会話　頻度と総量»

毎日の母子の会話量　1日あたり3回以上と2回以下と頻度が違うと1日1時間も会話時間に差 ･･･P1

«母親と子どものコミュニケーションの内容»

会話頻度が低い子どもは大事なことも話さなくなるが、会話頻度が高いと悩み事も相談もする ･･･P2

«母親と子どもが会話を始めるタイミング»

「話しかけやすい親」と思いこむ母親に対し、子どもの2/3は「母親に声をかけづらい」 ･･･P3

子どもの約8割が母親に話しかけるのをやめた経験アリ、特に女の子は敏感 ･･･P3

«母親と子どもの会話と家族の絆»

母子の会話に悩みがある子どもは、母親にもっと話したい！もっとかまって！とサインを出している ･･･P4

母子の会話に悩みがある子どもは、家族の幸せや母親から愛されることへの実感値が低い ･･･P5

＜調査概要＞

■実施時期　2018年7月27日（金）～8月2日（木）　■調査手法　インターネット調査

■調査対象　中高生の子どもを持つ母親1,000人と、中高生男女1,000人（中学生500人、高校生500人）

母子のコミュニケーションを応援するポッキーから、母子コミュニケーションへ新提案！

会話の頻度を増やすことが大事。“ふたりの一緒時間”を始めてみては？

母親と子どもの普段の会話

■ 中高生の子どもと母親との普段の会話の総量は、1回の時間の長さではなく、頻度の多さが決め手

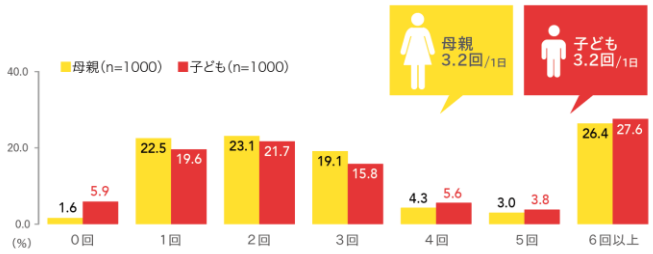
■ 会話頻度が高い母子は会話時間も長く、頻度が3回以上と2回以下で1日あたりおよそ1時間もの差!?

まず、中高生の子どもを持つ母親と中高生の子どもそれぞれに、お互いに会話する機会は１日で何回ぐらいあるかと聞くと、平均は母子とも1日3.2回となりましたが、最も多いのは母子ともに「1日6回以上」（母親26.4%、子ども27.6%）でした［図1-1］。

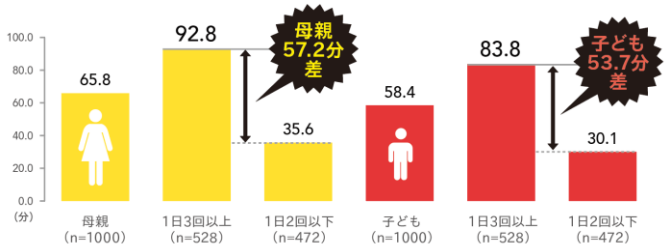
次に1日の会話時間を聞くと、母親全体の平均は1日65.8分ですが、1日の会話回数が平均より多い「3回以上」の母親では92.8分、「2回以下」の母親では35.6分となり、57.2分もの会話量の差が生じています。子どもも同様の傾向で、1日の会話が「3回以上」だと83.8分、「2回以下」だと30.1分となり、会話頻度が少ないと53.7分も会話時間が短くなっています［図1-2］。

母子の会話は、1回の会話は短くても、何度も話す方が会話時間が長くなる傾向が明らかになりました。

［図1-1］母と子の1日の会話頻度（Q2）



［図1-2］母と子の1日の会話時間（Q4）



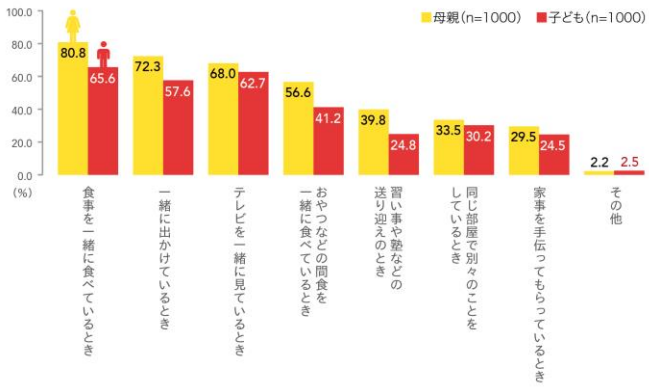
■ 中高生の子どもと母親が会話するタイミングは、「食事」や「お出かけ」「テレビ」など

■ 母子ともに「一緒に何かをしているとき」が話しかけやすいと意見が一致

母親に子どもに話しかけやすいタイミングを聞くと、「食事を一緒に食べているとき」（80.8%）、「一緒に出かけているとき」（72.3%）、「テレビを一緒に見ているとき」（68.0%）、「おやつなどの間食を一緒に食べているとき」（56.6%）の順となりました。一方、子どもが母親に話しかけやすいのは、「食事を一緒に食べているとき」（65.6%）、「テレビを一緒に見ているとき」（62.7%）、「一緒に出かけているとき」（57.6%）、「おやつなどの間食を一緒に食べているとき」（41.2%）の順となりました［図2］。

一緒に何かをしているときが母子の会話が弾むタイミングとなっているようです。

［図2］相手に話しかけやすいタイミング（Q6）



何でも聞きたい母親、話題を選ぶ子ども

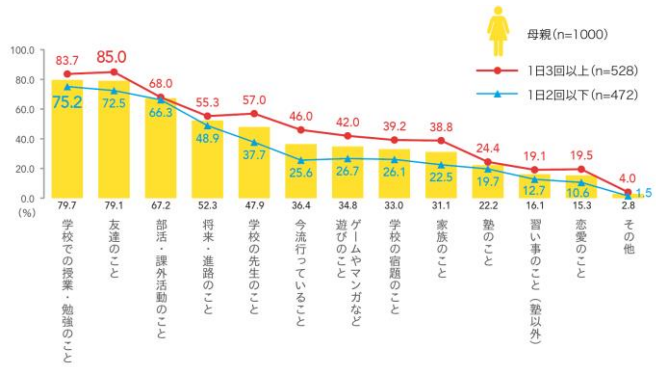
■「学校」「友達」「部活」「将来」など大事なことは、会話の頻度が低くても母親は子どもに話しかけている

■ 子どもから母親への話しかけ、会話頻度が低いと大事なことも話さなくなる

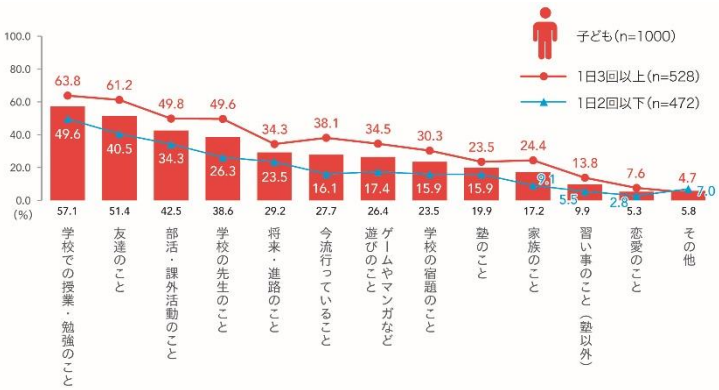
では、普段、どのような会話を子どもとしているのか母親に聞くと、「学校での授業・勉強のこと」（79.7%）、「友達のこと」（79.1%）、「部活・課外活動のこと」（67.2%）、「将来・進路のこと」（52.3%）の順となりました。これを子どもとの1日の会話頻度別に見ると、1日3回以上会話する母親の方がすべての話題において話しかける割合が高くなっていますが、「学校での授業・勉強のこと」（3回以上83.7%、2回以下75.2%）、「部活・課外活動のこと」（3回以上68.0%、2回以下66.3%）、「将来・進路のこと」（3回以上55.3%、2回以下48.9%）に関しては、1日2回以下しか話をしない母親も、子どもと会話しているようです［図3-1］。

では、子どもは母親にどんなことを話しているのか聞くと、「学校での授業・勉強のこと」（57.1%）、「友達のこと」（51.4%）、「部活・課外活動のこと」（42.5%）、「学校の先生のこと」（38.6%）の順となっています。さらに、親との会話頻度が低い子どもは、「学校」「友人」「部活」「将来」といった大事なことも含めて、すべての話題で親に話しかける割合が低くなっています［図3-2］。

［図3-1］母親が子どもに話しかける話題（Q7）



［図3-2］子どもが母親に話しかける話題（Q8）

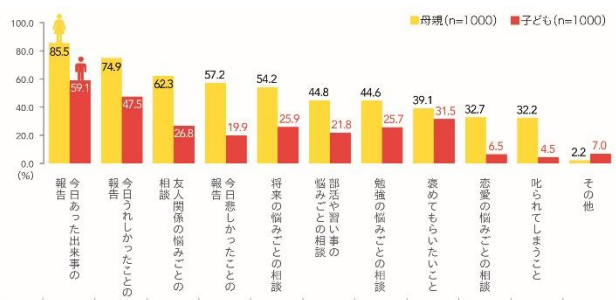


■ 子どものことは何でも聞きたい母親、いいこと・当たり障りのないことだけを話したい子ども

■ 母子の会話頻度が高い子どもは、いいことだけでなく「悩み事」も母親に相談するようになる

母親が子どもから聞きたい話題は「今日あった出来事の報告」（85.5%）、「今日うれしかったこと」（74.9%）、「友人関係の悩みごとの相談」（62.3%）、「今日悲しかったこと」（57.2%）など、どんなことでも聞きたいと思っています。一方、子どもが母親にしたい話題は、「今日あった出来事の報告」（59.1%）、「今日うれしかったこと」（47.5%）、「褒めてもらいたいこと」（31.5%）など良い話、話しやすい話題が中心です。しかし、母親との会話頻度が3回以上の子どもは2回以下の子どもに比べ、「友人関係の悩みごと」（3回以上35.6%、2回以上16.9%）、「将来の悩みごと」（3回以上31.1%、2回以上20.1%）「勉強の悩みごと」（3回以上32.4%、2回以上18.2%）などの「悩み事」も母親に打ち明けているようです［図4］。

［図4］母親が聞きたい話題、子どもが話したい話題（Q9）



		今日あった出来事の報告	今日うれしかったことの報告	友人関係の悩みごとの相談	今日悲しかったことの報告	将来の悩みごとの相談	部活や習い事の悩みごとの相談	勉強の悩みごとの相談	褒めてもらいたいこと	恋愛の悩みごとの相談	叱られてしまうこと	その他
母親	母親(n=1000)	85.5	74.9	62.3	57.2	54.2	44.8	44.6	39.1	32.7	32.2	2.2
	1日3回以上(n=528)	88.6	77.5	66.9	62.1	54.5	47.2	51.1	43.2	34.5	36.9	2.7
	1日2回以下(n=472)	82.0	72.0	57.2	51.7	53.8	42.2	37.3	34.5	30.7	26.9	1.7
子ども	子ども(n=1000)	59.1	47.5	26.8	19.9	25.9	21.8	25.7	31.5	6.5	4.5	7.0
	1日3回以上(n=528)	68.6	58.1	35.6	26.1	31.1	27.5	32.4	35.8	8.1	5.3	4.2
	1日2回以下(n=472)	48.5	35.6	16.9	12.9	20.1	15.5	18.2	26.7	4.7	3.6	10.2

親全体、子ども全体より ■+5% ■+10% ■-5% ■-10%

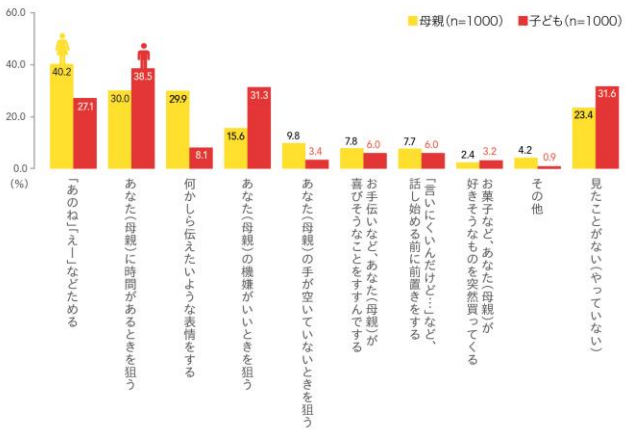
いつでも話しかけてほしい母親、母親の機嫌をうかがう子ども

■ 子どもが母親に話しかけるとき、68%の子どもが親にサインを出し、77%の母親がそれを認識している

■ サインは、子どもの表情や雰囲気でなんとなく伝わるもののよう　会話を増やすきっかけは表情と空気感

どんな話でも聞きたい母親に比べると、子どもは母親との話題を選ぶ傾向があるようですが、子どもが母親に話しかけるサインがあるのか、母子ともに聞いてみました。すると、母親の76.6%がサインが「ある」と答え、子どもの68.4%がサインを「出す」と答えています。母親が気づいている子どものサインは、「『あのね』『えー』などためてくる」（40.2%）、「あなた（母親）に時間があるときを狙ってくる」（30.0%）、「何かしら伝えたいような表情をする」（29.9%）、「あなた（母親）の機嫌がいいときを狙ってくる」（15.6%）などです。子どもが意識しているサインは、「お母さんに時間があるときを狙う」（38.5%）、「お母さんの機嫌がよさそうなときを狙う」（31.3%）、「『あのね』『えー』などためてみる」（27.1%）などが挙げられました［図5］。子どもが母親と話したいとき、何らかのサインがあり、表情や雰囲気からなんとなく伝わるもののようで、母子の会話を増やすきっかけとして活用できそうです。

［図5］子どもが話しかけるサイン　母親の認識、子ども の自覚（Q10 Q11）



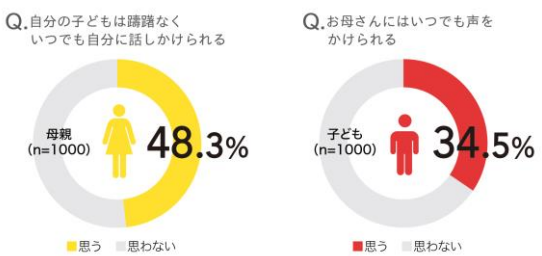
■「自分は子どもにとって話しかけやすい母親」と思っていても、子どもの2/3は「母親に声をかけづらい」と感じ、8割近くの子どもが母親に声をかけることをやめた経験がある　女の子はより敏感

母親は自分は話しかけやすい親だと認識するも、子どもは母親に話しかけづらいと感じているようです。母親の半数は「子どもはちゅうちょなくいつでも自分に話しかけられると思う」（48.3%）と答えており、自分は子どもにとって話しやすい母親であると認識しています。一方、「お母さんにはいつでも声をかけられる」と答えた子どもは3人に1人（34.5%）で、65.5%は母親にいつでも声をかけることにちゅうちょしています［図6］。

では、声をかけられたくないのはどんなときか母親に聞くと、31.1%は「いつでも話しかけて欲しい」と答えていますが、「やらないといけない用事で忙しいとき」（37.6%）や「体調が悪いとき」（27.1%）は子どもからの話かけにもおっくうになるようです。

また、子どもに母親に話しかけようとしてやめたことがあるかと聞くと、2割の子どもは「ない」（22.9%）と答えていますが、8割近くは経験があり（77.1%）、「お母さんの機嫌が悪そうなとき」（52.3%）、「お母さんが忙しそうなとき」（43.3%）、「お母さんの体調が悪そうなとき」（33.8%）など、子どもは母親の様子をうかがって声をかけているようです。この気遣いぶりを子どもの男女別に見ると、女の子の方が気遣い度が高く、母親の機嫌をより敏感に察知する傾向があります［図7］。

［図6］いつでも話しかけやすい母親　母親の認識、子どもの認識（Q19 Q13）



［図7］母親が子どもに話しかけられたくないとき　子どもが母親に話しかけるのをやめた経験（Q21 Q15

	やらないといけない用事で忙しいとき／お母さんが忙しそうなとき	体調が悪いとき／お母さんの体調が悪そうなとき	他のことをしていて、手が空いていないとき／あいづちがどこか雑に感じたとき	疲れているとき／話してもお母さんのリアクションが薄かったとき	何となく機嫌が悪いとき／お母さんのきげんが悪そうなとき	その他	いつでも話しかけてほしい
母親（n=1000）	37.6	27.1	25.8	24.6	17.6	1.1	31.3
子ども（n=1000）	43.3	33.8	20.6	26.8	52.3	1.9	22.9
男子中高生（n=500）	37.0	28.8	13.8	18.0	42.6	2.2	29.8
女子中高生（n=500）	49.6	38.8	27.4	35.6	62.0	1.6	16.0

子ども全体より　+5%　-10%

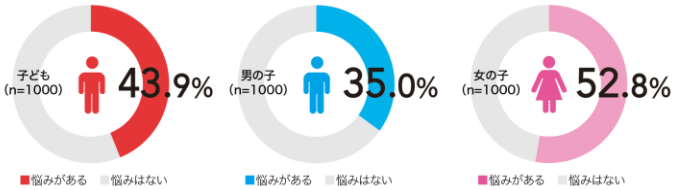
母親との会話に悩みがある子どもの傾向

■ 母親との会話に悩みを持つ子どもが4割も！

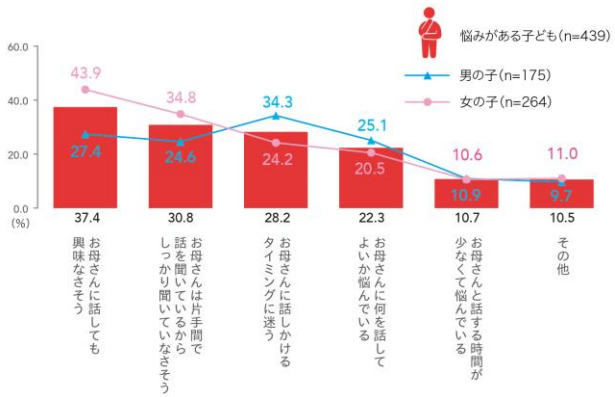
■ 母親に話しかけるタイミングに迷う男の子、興味なさそうな母親の態度にショックを受ける女の子

母親に声をかけることをためらうことがある中高生ですが、母親との会話の悩みを聞くと、全体の56.1%（男の子65.0%、女の子47.2%）が悩みが「ない」と答えており、その逆の43.9%（男の子35.0%、女の子52.8%）が悩みが「ある」と考えられます［図8-1］。

悩みの内容は、「お母さんに話しても興味なさそう」（37.4%）、「お母さんは片手間で話を聞いているからしっかり聞いていなさそう」（30.8%）など、母親のつれない態度が、子どもの会話をやめてしまっているようです。また「お母さんに話しかけるタイミングに迷う」男の子（34.3%）が多いのに対し、女の子は「お母さんに話しても興味なさそう」（43.9%）と感じる割合が高くなっています。女の子の方が、母親のつれない態度に敏感に反応し、ショックを受けるようです［図8-2］。



［図8-2］母親との会話における悩みの内容（Q14）



■ 母親との会話に悩みを持つ子どもは、もっと母親と接したい！

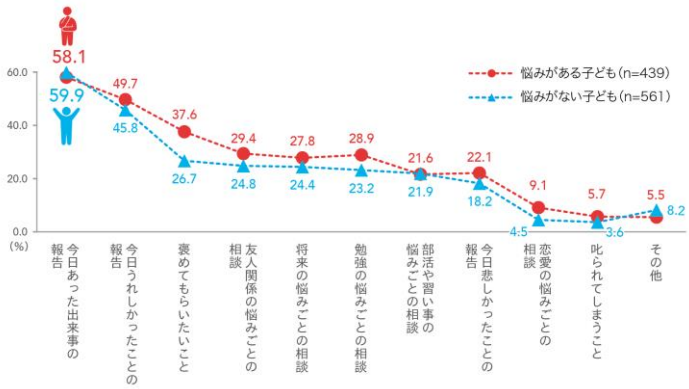
■ 母親とあれこれ話したくて、話したいサインをいっぱい出している

ここからは、母親との会話に「悩みがある」子ども（439人）と「悩みがない」子ども（561人）を比較して、その違いを見ていきましょう。

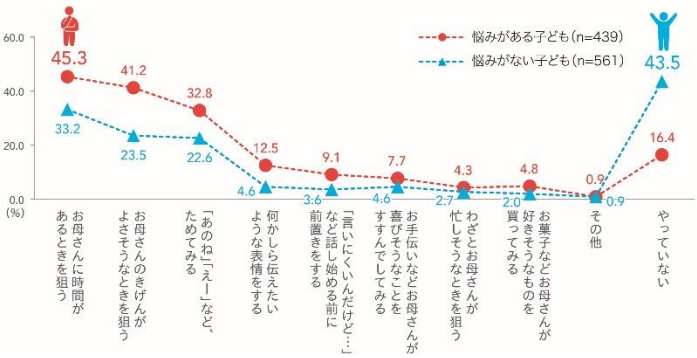
前述［図4］の母親にしたい話題を見ると、悩みがある子どもの方が母親に話したいスコアが全体的に高く、「褒めてもらいたいこと」（あり37.6%、なし26.7%）は10ポイントも高くなっています。母親との会話に悩む子どもは、母親ともっと話したい、もっと構ってほしいと思っているようです［図9］。

前述［図5］の母親に話しかけるサインについても、悩みがない子どもの43.5%はサインを出すことすらないのに対し、悩みがある子どものは総じてスコアが高くなっています。母親との会話に悩む子どもは、母親に話しかけたいというサインをより発信しています［図10］。

［図9］子どもが母親に話したい話題（Q9）



［図10］子どもが母親に話しかけるサイン（Q11）



母子の会話の悩みは母子関係全般に影響

■ 母親との会話に悩みを持つ子どもは、母親の顔色を見て話したくても話さないで我慢することも…

■ 母親との会話に悩みを持つ子どもは、家族の幸せや母親から愛されることへの実感値が低い

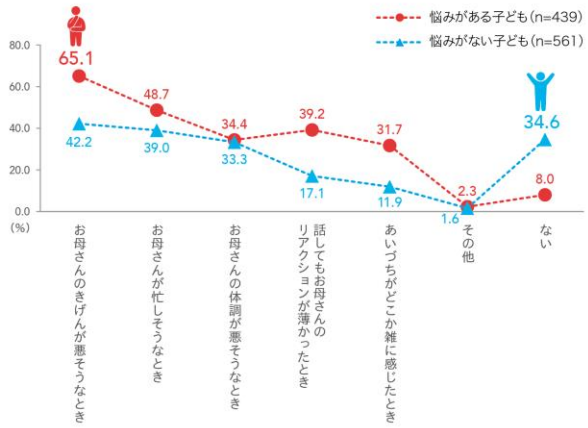
引き続き母親との会話に「悩みがある」子ども（439人）と「悩みがない」子ども（561人）の違いを見ていくと、前述［図7］の母親に話しかけるのをやめた経験も、悩みがある子どもの方が総じてスコアが高く、母親に気を使い、話したくても話せずにいる様子がうかがえます［図11］。

また、母親との会話に悩みがある子どもは、家族の幸せの実感値が低くなっています。悩みがない子どもは60.1%が「幸せだと思う」と答えていますが、悩みがある子どもは40.8%と20ポイントもの差があります［図12］。

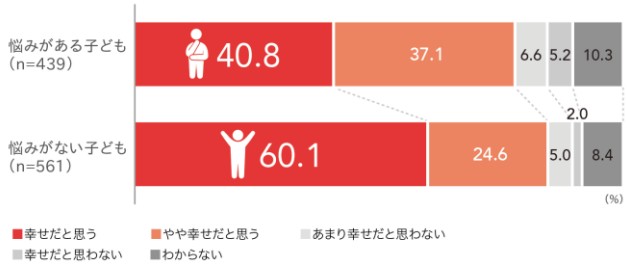
さらには、母親からの愛情に対しても同様の傾向で、悩みがない子どもは60.1%が「母親から愛されていると思う」と答えていますが、悩みがある子どもは43.7%と大幅に低くなっています［図13］。

母親と子どもの会話はコミュニケーションだけでなく、母子関係全般に大きな影響を与えています。逆に言うと、普段の会話をより密接なものにすることで、母子関係をより良好なものへと昇華できるといえそうです。

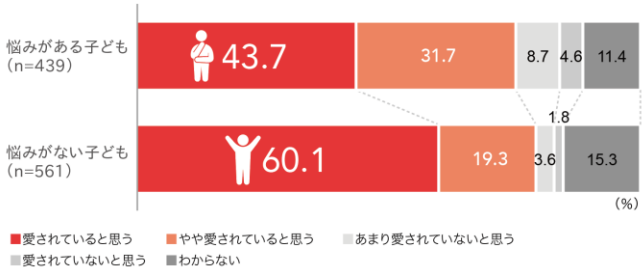
［図11］子どもが母親に話しかけるのをやめた経験（Q15）



［図12］家族は幸せだと思うか？（Q23 Q18）



［図13］母親から愛されていると感じるか？（Q24 Q19）

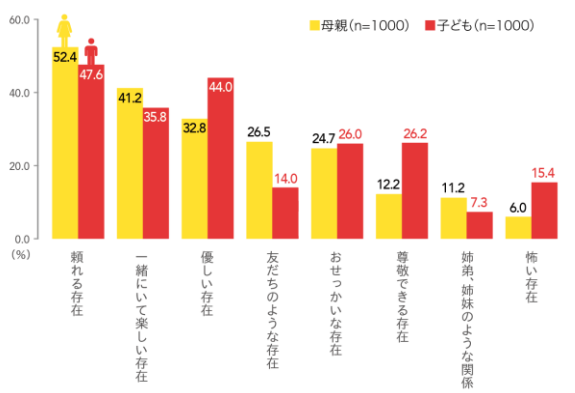


◎ 友達母子になりたいママ、尊敬できる母親であって欲しい子ども

母親に、子どもからどういう存在に見られるよう接しているかと聞くと、「頼れる存在」（52.4%）、「一緒にいて楽しい存在」（41.2%）、「やさしい存在」（32.8%）、「友達のような存在」（26.5%）が上位に挙げられました。母親は子どもに対して頼れる存在であるとともに、楽しくて優しい友達のような存在でありたいと願っているようです。

一方、子どもに母親はどんな存在かと聞くと、「頼れる存在」（47.6%）、「やさしい存在」（44.0%）、「一緒にいて楽しい存在」（35.8%）、「尊敬できる存在」（26.2%）などが上位となっています。子どもにとって母親は、やさしくて楽しくて頼れる、尊敬できる存在です。母親の方がより友達感覚で子どもと接したいと考えているのに対し、子どもにとっては尊敬すべき相手であり、友達ほど気楽な関係ではないようです。話しかけるタイミングを見計らったり、顔色をうかがってみたり…子どもにとっては尊敬すべき母親だからこそ、子どもなりに何かと気を使っているようです。母親からしたらそんな気遣いがちょっとさみしく感じるかもしれませんが、それだけ成長したことの証しとも捉えられます。

Q.どんな母親になりたいか？　母親はどんな存在か？
（Q22 Q17）



調査のまとめ

①「話しかけやすい」と思う母親に対し、「空気を敏感に察知する」子どもとのギャップがある。
②母子の会話は「頻度が大事」で、頻度が多いほど相談もでき、もっと気軽に話せる。
③子どもにとっての母子コミュニケーションの悩みは、「母親の片手間感」。
④子どもの悩みをクリアにすることが、幸せや親からの愛情の実感に直結する。

母子コミュニケーションのヒント

とにかく会話の頻度を増やすことが大事。そのためには母親の表情と空気感がポイント、さらには日々の生活の中に“一緒に○○”を取り入れることが、母子コミュニケーションには不可欠。
一緒にご飯を食べる、家事をする、外へ出かけるなど、今日からでも“ふたりの一緒時間”を始めてみてはいかがでしょうか。

POCKY ポッキーからの“新たな提案”

「いつでも子どもは話しかけられる」と思う母親に対し、
子どもは「お母さんとの会話に悩みがある・・・。忙しそうだし、少しもどかしい・・・」。
今回の調査を通して、母子間におけるコミュニケーションの認識のギャップによって
“会話のキッカケ”をなかなか持てていない事実が明らかになり、
また、“一緒に○○をする時間”を作ることが母子会話のキッカケのポイントとなることがわかりました。
「情報の伝達」だけであればLINEやメールで事足りるけれど、
顔を合わせながらでないと話せないこと、わかり合えないことはやはりあるのではないでしょうか。
また、今回の調査で好きなチョコレート菓子を聞いたところ、
母親は、ポッキー（490人/ 4位）に対し、子どもはポッキーが1位(624人)となりました。
子どもに一番人気のポッキーを上手に使って会話をしてみませんか？

2018年は、ポッキーが宣言をする年。

「明日はポッキー何本分話そうかな。」

2018年は、ポッキーは『大切な人との会話のキッカケを生み出すツール』として宣言します。
ポッキー何本分、それは使い方次第でどんな意味にもなり得る変幻自在で自由な言葉。

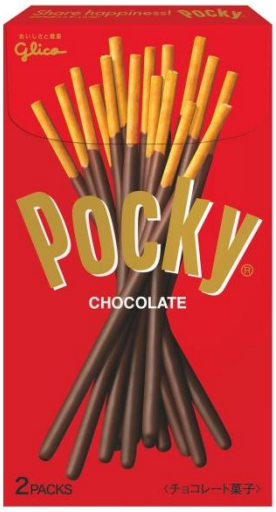
例えば「ちょっと話したいことがある」は、「ポッキー5本分、時間いいかな？」。
「ものすごく反省しています」は、「ポッキー100本分ごめんなさい」。
それは時間の単位であり、想いの量であり、同じ1本でも人によって感じ方、捉え方が違います。
なかなか言いだせない「ありがとう」、「ごめんね」も、ポッキー何本分にのせると素直になれそう。

「Share happiness！（シェアハピネス）」。
誰かと一緒に分け合えて楽しい会話のきっかけにもなるポッキーだからこそ、
母子のコミュニケーション不足を解消するツールとして、今の世の中を変えていけるのではないかと考えています。
その出番を待って、いつも皆さんのそばで、ポッキーは、スタンバイしています。

宮沢りえさんが、大倉孝二さん、CM初出演の南沙良さんと演じるTV-CM「何本分話そうかな・デビュー篇」

宮沢りえさん、大倉孝二さん、南沙良さんを起用し、新TV-CM「何本分話そうかな・デビュー篇」（15秒・30秒）を、全国でオンエア中。TV-CMと連動したWEB動画(135秒)も含め、YouTubeグリコ公式チャンネル（https://youtu.be/RaKWAVF_87A）にて公開中。
なお、同CMの主題歌として、B'zによるCMの世界観を再現した書き下ろしの新曲『マジェスティック』（作詞：稲葉浩志　作曲：松本孝弘）を起用しています。

1966年の発売以来、幅広い年齢層に親しまれている「Pocky」



製品名：ポッキーチョコレート
価　格：オープン価格
内容量：2袋

«完璧なハーモニー»
棒状のカリカリとしたプレッツェルと、高品質でクリーミーなチョコレートの美しいコーティングとの絶妙なバランス

«持ちやすさ»
棒状のプレッツェルは高品質のチョコレートでたっぷり覆われながら、一方の端は覆われていないことで持ち手ができ、チョコレートで手を汚すことなく食べられる

«スタイリッシュさ»
ポッキーのスタイリッシュなデザインは間食を素敵に彩り、にぎやかなパーティや友達との楽しい時間のお供にぴったり

«携帯のしやすさ»
一人でいたい時も、友達と楽しい時間を過ごしたい時にも、コンパクトで持ち運びがしやすいパッケージ

«心躍らせる音»
ポッキーが軽やかに割れる音や食感は、楽しくリズミカルで気分を盛り上げる